古文単語　敬語から主語を読む　③

名前 _____

高校／場面の説明なしで、敬語から人物と敬意の向きを決める　　日付 _____

尊敬語は「動作をする人」へ、謙譲語は「動作を受ける人」へ敬意を向ける。
敬意を表す人（だれから）は、地の文なら「作者」、会話文（「」の中）なら「話し手」。
表に、――線①～⑦の敬語の種類（尊敬・謙譲）、動作をする人、敬意の向き（だれから→だれへ）を書く。
人は記号で答える。
場面の説明はないので、本文の人物と敬語の種類から決める。

人物の記号　ア 作者　イ 親（翁と嫗）　ウ かぐや姫　エ 帝　オ 御使（帝の使い）

近く使はるる人々、竹取の翁に告げていはく、「……」といふを聞きて、かぐや姫にいふやう、「なでふ心ちすれば、かく物を思ひたるさまにて月を見①たまふぞ。うましき世に。」といふ。（中略）八月十五日ばかりの月にいで居て、かぐや姫いといたく泣き②たまふ。（中略）これを見て、親どもも「何事ぞ。」と問ひさわぐ。かぐや姫なくなくいふ、「さきざきも③申さんと思ひしかども、……」といひて、いみじく泣く。（中略）御使仰事とて翁にいはく、「いと心苦しく物思ふなるは、誠にか。」と④仰せたまふ。（中略）御使かへり⑤参りて、……を⑥きこしめして⑦のたまふ、「……」（竹取物語）

問1

	種類	動作をする人	敬意（から）		敬意（へ）
① たまふ				→	
② たまふ				→	
③ 申さ				→	
④ 仰せたまふ				→	
⑤ 参り				→	
⑥ きこしめし				→	
⑦ のたまふ				→	

問2　④「仰せたまふ」の動作をする人は、本文のどこにも書かれていない。そう決まる手がかりを書きなさい。

④

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語　敬語から主語を読む　③【こたえ】

高校／場面の説明なしで、敬語から人物と敬意の向きを決める

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

赤い字がこたえです。敬意の向きは「だれから→だれへ」です。
主語の書かれていない文は、敬語の種類と、地の文か会話文かを手がかりに決めます。

人物の記号　ア 作者　イ 親（翁と嫗）　ウ かぐや姫　エ 帝　オ 御使（帝の使い）

近く使はるる人々、竹取の翁に告げていはく、「……」といふを聞きて、かぐや姫にいふやう、「なでふ心ちすれば、かく物を思ひたるさまにて月を見①たまふぞ。うましき世に。」といふ。（中略）八月十五日ばかりの月にいで居て、かぐや姫いといたく泣き②たまふ。（中略）これを見て、親どもも「何事ぞ。」と問ひさわぐ。かぐや姫なくなくいふ、「さきざきも③申さんと思ひしかども、……」といひて、いみじく泣く。（中略）御使仰事とて翁にいはく、「いと心苦しく物思ふなるは、誠にか。」と④仰せたまふ。（中略）御使かへり⑤参りて、……を⑥きこしめして⑦のたまふ、「……」（竹取物語）

問1

	種類	動作をする人	敬意（から）		敬意（へ）
① たまふ	尊敬	ウ	イ	→	ウ
② たまふ	尊敬	ウ	ア	→	ウ
③ 申さ	謙譲	ウ	ウ	→	イ
④ 仰せたまふ	尊敬	エ	ア	→	エ
⑤ 参り	謙譲	オ	ア	→	エ
⑥ きこしめし	尊敬	エ	ア	→	エ
⑦ のたまふ	尊敬	エ	ア	→	エ

問2　④「仰せたまふ」の動作をする人は、本文のどこにも書かれていない。そう決まる手がかりを書きなさい。

④ 「仰事とて」と帝の言葉を伝える文で、尊敬語「仰せたまふ」が付く→動作をする人は帝（エ）。御使は帝の使い

・尊敬語（①②④⑥⑦）は動作をする人へ、謙譲語（③⑤）は動作を受ける人へ敬意が向かう。
・会話文の敬語（①③）は話し手から、地の文の敬語（②④⑤⑥⑦）は作者から。
・動詞の下に付く「たまふ」（①②）は補助動詞（尊敬）。
・③「申さ」は謙譲語で、受け手は話しかけている親。④「仰せたまふ」は最高敬語（二重の尊敬）。御使が帝の言葉を伝える文で、「いはく」の主語は御使だが、敬語（尊敬）があるので、動作をする人は帝。